

## 結婚のコンジョイント分析

水野 愛子

近年、日本の男女のライフスタイルが時代とともに変化してきていることと並行して、結婚の先送りによる晩婚化や少子化、高齢化が着実に進み、我が国の将来をも左右する大きな社会問題となっている。世界的に見れば人口は増加しているにも拘らず日本は少子化の道を進んでいる。

本研究では、少子化とも関わりのある結婚問題を取り上げている。若い世代の代表として現代の大学生が、人生の重大な関心事であろう自身の結婚においてどのような意識を持っているのかの結婚観、また、結婚相手に対してはどのような理想を描いているのかという結婚相手に求める選好を、コンジョイント分析を用いて調査、分析することを目的としている。コンジョイント分析は、対象となるものの評価を決定する要因を「属性」、属性の具体的な内容を「水準」として設定し、属性と水準の組み合わせを選好評価してもらうことで、そこから属性の重要度や、水準の効用値を測定することが可能であるという分析方法である。

これまでに、結婚に関する研究は多く存在するも、結婚観という広くくりに総括されているものが多く、具体的に結婚相手に特化した形での研究は少ないように見受けられる。今回コンジョイント分析によるアプローチを用いることで、様々な属性を同じスケールで定量的に明らかにできる点において意義のある研究になると考えられる。

調査は、2010年7月1日に国立T大学の学生を対象とした第1回調査（プレテスト）を実施し、そこで得られた結果をもとに調査票を改良し、同年11月、同じく国立T大学で第2回調査（本調査）を実施している。アンケート調査の有効回答数は、プレテストが計97名（女性65名、男性32名）、本調査が計90名（女性57名、男性33名）であった。2回の調査で得られたデータは、それぞれコンジョイント分析を用いて解析し、「回答者全体」、「男女別」の観点から考察した。

本調査では、6属性（年齢、配偶者の収入、価値観、親との関係（居住距離）、身長、学歴）についてそれぞれ3～5項目の水準を設定し、これらを組み合わせた計27枚のコンセプトカードを提示して5件法で評価してもらった。その結果、「年齢」が最も支持を集め、僅差で「価値観」が続くことが明らかになった。この結果から、結婚相手を選ぶ際には、まず「年齢」を重要視し、「価値観」の一致も望まれ、「身長」は結婚相手の条件としては相対的に重視されていないことが窺えた。女性では、「年齢」、「価値観」、「学歴」、「配偶者の収入」、「親との関係（居住距離）」、「身長」の順に、また男性では、「年齢」、「価値観」、「学歴」、「親との関係（居住距離）」、「配偶者の収入」「身長」の順となっている。6属性全てが重要である中で敢えてどの属性を重視するかという選択の中では、相対重要度値の評価から、前述した通り「年齢」が好まれ、部分効用値から男女で差は見られるもののほぼ同年齢を志向している結果が得られた。

（指導教員 池内淳）